

🔋 本日の卓話

(株)埼玉新聞社 代表取締役 小川 秀樹様
書店の数は1999年2万2千店あったが、2014年には1万4千店。15年で約40%の書店が店じまいしている。その一方で、KADOKAWAとドワンゴや書籍取次業界3位「大阪屋」とネット通販最大手の「楽天」との資本・業務提携の協議が始まっている。いずれも、取り次ぎも本屋も介さず、世界中の読者に向けて直接、コンテンツを売って行こうと言う大きな動き。アニメ、マンガを中心とした巨大コンテンツマーケットが地球上に広がっており、早い者勝ちの大競争時代に突入していると言える。また、新聞に目を転じると英国から新聞発行部数は減少中。最も部数の多い大衆紙ザ・サンは対前年比10・6%、中道左派層をターゲットにしているガーディアン7・6%と大きく減らした。逆に比較的減らなかったのは、世界最古の保守系高級紙ザ・タイムスの対前年度比1・2%マイナス、日経が買ったフィナンシャルタイムスも対前年度比2・9%マイナスと踏みとどまっている。読者層がしっかり固まっているというか、発信する情報がぶれないメディアは強い。日本はどうかと言えば、日本新聞協会加盟の2014年の国内の発行部数の総数は4536万部。2000年は5371万部あったので、14年で835万部、16%の減少。1年で1%程度減った。

書籍や新聞が売れなくなったのはなぜか？活字離れというが、実に現代は過去にないほどの活字量にあふれていて、文字そのものが嫌いなわけではない。それではなぜ、新聞や本を読まなくなったかと言えば、「情報」という概念が大きく変わってきているからだ。かつては「知的である」ということが、人間評価の中で極めて高い位置にあった。しかし「知的である」ということそのものの価値が変化している。どうも最近、人間の評価の中で、「知的である」という価値の順位が下がっているように見える。インターネットの出現と急速な進化で、「考える」世界観から「探す」とする世界観へ、知の世界が大きく変化している。「考える」力より、「探す」あるいは「選ぶ」力の方が価値が高くなっている。文明的な大変化が、地球上で同時に進んでいることが、今の「活字離れ」なのだと思う。

今年9月、国勢調査が今回からパソコンで処理できた。膨大な費用をかけて来た国勢調査の調査員は、次回2020年はたぶん4分の1になる。そしてその次はその半分、今の8分の1になる。埼玉新聞を例にとれば、紙に印刷するというのは基本的に変わらないだろうが、印刷技術とデジタル技術の発達で、新しいデバイスを新聞にかざすと3D動画が動き出して「特別解説」をするのも可能。でも、それは別料金。紙面の作り方では自社取材記事と投稿型記事が逆転し、投稿型記事が圧倒的に増え

ることになるでしょう。独自取材はより進化した形で残りますが、外部からの情報を「選択する」機能が重要になって行くと思われます。

埼玉新聞も埼玉県を範囲とする新聞で、他社にないオリジナルとクオリティを提供して行ける素地はある。埼玉の地域性に合った泥臭い、生活感のある情報に特化してさらなる高みを目指していきたい。大きな時代の流れで見ると、国家から民族、宗教、そして都市の時代に流れている。国を超え、企業を超え、情報と金が行きかう時代となってきて、これまでの「おかみ」が情報をコントロールしていた時代から、誰もが情報を発信し合う、インタラクティブな時代に突入している。

私たちは、地域を愛し、家族を愛する普通の埼玉県民の生活に潤いと元気を与える仕事をするのがモットー。それゆえ、ローカルな情報を今以上に大切にし、読者と紙面の距離を縮めることで、生き残りというか、次の進化段階に入っていると思う。



卓話ありがとうございます
小川 秀樹様

🔋 ニコニコ報告

切通 勇次	小川様卓話お願いいたします
今村 勲	小川様卓話ありがとうございます
磯 利昭	小川様卓話よろしくお願いいたします
大杉 能弘	小川様卓話ありがとうございます
小林 忠	小川様卓話よろしくお願いいたします
須田 清	小川さんようこそお出でいただきました
延島 三男	小川様卓楽しみです
延島 三男	クリスマス夜間例会に出席できず申し訳ありません
藤原 忠雄	小川様卓話宜しくをお願いいたします
藤原 忠雄	今日は天気ですが、明日から寒くなるらしいので気を付けてください
森川 昌紀	小川様本日は宜しく申し上げます
盧 聖煥	小川様ようこそ。卓話ありがとうございます
槇 孝夫	小川様卓話よろしくお願いいたします

会 員	出 席	計算会員	M U	出席率	ニコニコ	合 計	累 計
22 名	11 名	19 名	1 枚	63.2%	12 口	19,000 円	508,000 円

